



世界につながる教室<sup>15</sup>

# 研修から授業実践へ

## 国際理解教育／開発教育指導者研修と授業

JICAが開催している「国際理解教育／開発教育指導者研修」は、すでに国際理解教育を実践している教員に向けた、いわゆる“中級”研修だ。2020年度の同研修に参加した名古屋市立植田東小学校教諭の脇田佐知子さんの取り組みを紹介する。

STEP  
1

国際理解教育／開発教育指導者研修

前半

「私たちと世界のつながり—持続可能な社会のジブンゴト化—」をテーマに、授業の指導案作成や授業を行うポイントなどを学ぶ。授業に役立つJICAの教材も紹介。



STEP  
2

脇田先生の  
国際理解教育／開発教育授業

### 食とわたしたち

～地球的な視野で食について考えよう～

総合的な学習の時間(全49時間) 5年生125名



4年前に参加したJICAの教師海外研修が国際理解教育に取り組むきっかけになりました

名古屋市立植田東小学校 教諭 脇田 佐知子(わきた・さちこ)さん

国際理解を深めるための授業のポイントを学ぶ

地域と連携して食品ロスを考える

東京・市ヶ谷にあるJICA地球ひろばは、「私たちと世界のつながり—持続可能な社会のジブンゴト化—」をテーマに、2020年度の国際理解教育／開発教育指導者研修を開催した。前半研修では授業づくりについて見識を深めて学習指導案を作成し、各学校で授業実践を行う。後半研修では、その報告と意見交換を実施した。

植田東小学校教諭、脇田佐知子さんが今回の研修に参加したのは、「アドバイザーを務める日本国際理解教育学会の方々から、授業の方法などを直接学びたい」と考えたからだ。「オンラインでの開催だったので地方から受講できることも、きっかけとなりました」。

前半研修では、子どもたちが自分たちの暮らしと世界のつながりを考え、持続可能な社会づくりを自分ごととしてとらえられる学習指導案を作成した。「学習の目標を明確にし、それに沿った指導ができる授業になっているかどうかに留意しながら作成しました。また汎用性を持たせて、どの先生でも授業ができる指導案にすることが大切だと学びました」

脇田さんの授業のテーマは「食品ロス」。「食は子どもたちが興味を持ちやすいですし、給食の残りが多いことも気になっていたもので」と脇田さんはテーマ選定の理由を話す。5年生を対象に総合的な学習の時間を使い、1年間かけて授業を行った。1学期の授業では日本の食が世界と密接に関係していることや、世界にはさまざまな食文化があること、食べ物生きていくために必要不可欠なものであることを、子どもたちが調べて食に関する理解を深めた。

2学期は、JICAの漫画教材や広報紙「mundi」の記事などをさまざまな資料を活用。世界で多くの人々が飢えに苦しんでいることや日本で大量の食品ロスが出ていることをクイズなども盛り込んで伝えつつ、子どもたちが考える過程を重視した。いつでも資料を手にとれるスペースを設け、子どもたちの自発的な学びも促した。そうして食品ロス問題の解決の必要性に思いが至ったところで、子どもたちによる調査を行った。近隣のスーパーやコンビニエンスストア、飲食店に協力を仰いで食品ロスに関するアンケートに答えもらった。「それをもとに自分た

ちが行動できることを話し合いました。『食べ残さないで』と啓発するポスターやポップ作り、残さなかったお客さんはポイントが2倍になるなど、お店の負担にならない案がいくつも出ました」とうれしそうに脇田さん。実際、食べ残しが減ったお店もあったそうだ。3学期は、学校内でも給食の食べ残しを減らすためにアンケート

で実態を調査。食品ロスについて伝え、食べ残しを減らすことを低学年に呼びかけるカードを作った。「地域のお店と連携したことで子どもたちのやる気も引き出せました。社会に出て活動することで生まれる責任感や、効果が出たことへの喜びは、学校の中だけでは得られないものです」と、脇田さんは授業の成果を実感している。

### 研修での学びを生かした授業を

後半研修は参加者が授業の内容を報告し、たがいに講評し合った。「今回の研修もそうですが、写真や動画を使うと子どもたちの興味をひきやすいこと、また世界の課題を伝える際には、たとえばバンングラデシュで暮らす9歳の○○ちゃんとか具体的な話をするより身近に感じてもらえるなどの確かなアドバイスをいただけたので授業に生かしやすいです」と脇田さんはJICAの研修のよさを話す。

「私が今、世界の課題や環境について授業を行っているルーツは、自分が小学生のときに受けた、世界について学ぶ授業にあると思います。私もそんないつまでも心に残る授業ができる教師を目指して、これからもしっかりと取り組んでいきます」と脇田さんは締めくくった。

後半

STEP  
3

国際理解教育／開発教育指導者研修

前半の研修をふまえて行った授業について報告・意見交換を行った。他校での取り組みを知ることができるよい機会になった。



### 1 世界の食や身近な食と世界のつながりを調べよう

本やインターネット、身近な人への聞き取りによる調べ学習。調べたことをクイズとその解説にしてポスターにまとめた。活動を通して、世界の多様な食文化や、身近な食べ物と世界とのつながり、食べ物の大切さなどに気づいた。



食品ロスの原因を付箋に書き出して考える子どもたち。

栄養不足人口の割合で国を色分けしたハンガーマップで、世界の飢饉の状況を教える。



授業で活用したJICAの教材。世界の食料について漫画でわかりやすく解説している。

### 2 地域のお悩み解決プロジェクト～食品ロス問題を解決しよう～

写真や動画で飢饉や食品ロスの現実を伝え、その原因を考えた。さらに、食品ロスと自分との関わりを話し合った。食品ロスの多さに驚く子どもも。

その後12の店にアンケートと電話取材を実施。また店での食品ロスを減らすために自分たちができることを考え、ポスターやポップを作った。



店へ提案するための食品ロスを減らす取り組みを発表。

持続可能な開発目標(SDGs)と食品ロスを関係づけた。



作ったポスターを店の方に渡し、店内に掲示してもらうようお願いした。



### 3 学校給食の食べ残しの削減に取り組もう

給食での食べ残しを減らすことにも取り組んだ。配膳のときに自分が食べられる量だけよそってもらい、少なめにとってお代わりするといった行動に加え、低学年に向けて残さないように呼びかけるカードを制作。

### 4 これからの日本の食や自分の食生活のあり方について意見文で表現しよう

これまでの授業をふり返り、あらためて自分たちにできること、取り組まなければならないことを意見文にまとめた。